

# かぐじをつなぐ、 かぐじが繋げる。

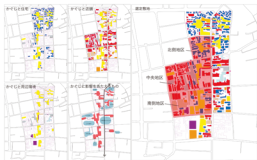
「かぐじ」は、現在動力のない空間になっておられれてしまっています。

かぐじは、母屋や倉の裏側にある敷地の裏側の余剰空間です。しかし、黒石においてそれぞれの街区の性格は大きく異なり、かぐじ空間の性格は周辺環境に大きく影響されます。また、倉や井戸などの資源が静かに眠っている空間であり、雪などの要素により季節や空間によって異なった顔をもせる繊細な空間になっています。

私たちは、こうした黒石の目の当てられていない空間に対して、黒石らしい空間の活用方法を提案をしました。

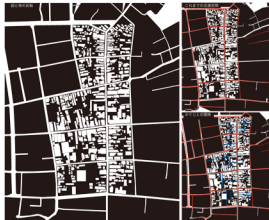
こうした提案により、かぐじ同士は関係性を持ち、つながっていきます。

そして、今まででは見えなかった空間や人々が、かぐじ空間によってつながっていきます。



敷地を連結するにあたって、1〜4の調査から、街区によってかぐじを取り巻く環境は大きく異なることがわかりました。その調査結果から性格の異なるかぐじ空間のつながりを決定しました。また、中心に位置するかぐじ広場は、オーフンスペースとしても有効に使われておらず、ひとを引き込むようなデザインにもなっていません。せせらびや広い芝生など、資源となるものも多く存在していて、緑空間にも歩行者空間として利用できるこまごま空間も存在しているのにも関わらず、その活用はあまり考えられていません。このかぐじ広場の空間の利用を私たちは考え、この敷地を決定しました。

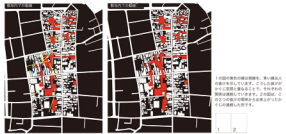
北原地区	中央地区	南原地区
<p>付属した敷地は多いが、かぐじ空間を効果的に活用する敷地は少ない。街区のかぐじ空間は、緩やかに広がっている。街区からの歩行者が少ないうちで繋がっていると考えられます。</p> <p>このかぐじ空間を効果的に活用しようとして、親睦会の集まりや展示、また遊び場などが繋がります。</p>	<p>中央地区は、多くの建物が建て替わることによってかぐじ空間のつながりが、よりその敷地の広さや敷地の形状によって広がっている。かぐじ空間からの歩行者も増える。また、親睦会の集まりや展示などの活動が増えることでかぐじ空間に人が集まる場として存在できます。そして、かぐじ空間もより付属した敷地へのつながりによってかぐじのつながりを増やします。</p>	<p>住宅、商店、駐車場、公共施設に囲まれており、いろいろな性格を持った、とてもオーフンスペースがあります。そして、緑空間の活用が少なくことになり、歩行者の多い歩行者の場となります。</p> <p>また、このかぐじ空間にはいろいろな顔があり、その顔の中核に存在しています。その顔を送り出す、人々がかぐじ広場に集まれるようになります。</p>



1は、地区の自然を反映した図です。濃い部分で示すのは、歩行者空間です。この図でわかることは、街区の内部にかつらり大きな空間がうまれているということです。この空間の多くは「かぐじ」であり、現在おられられている存在になっています。

2の図は、これまでの歩行者空間を示しています。これまででは、道路上の動きが主軸となっていました。

3の図の有効が示しているものは、かぐじの新たな関係性により生まれる歩行者空間です。新たな新しい顔と、現在主軸になっている歩行者の間に関係性生まれ、歩行者空間におうをあたえています。



1の図の色の線は関係性、新しい顔のつながりです。こうした線がかぐじ空間とつながることによって、それぞれの敷地が関係性を持っています。2の図は、この2つの図の敷地からつながりかぐじの活用が示されています。